

愛知駅伝で初の表彰台へ

東郷町体育協会陸上部

県内の全市町村がタイムを競う「愛知駅伝」。毎年12月に行われ、昨年で第9回を迎えたこの大会は、今ではすっかり愛知県冬の恒例行事となっています。今回は、昨年の大会に出場し、見事3位に輝いた東郷町の選手の皆さんにお話を伺ってきました。

悲願の表彰台

愛知駅伝（正式名称…愛知万博メモリアル 愛知県市町村対抗駅伝競走大会）は、平成17年に開催された「愛知万博」を次世代へ語り継ぐこと、県内各市町村の交流、スポーツの振興などを目的とした駅伝で、万博の翌年から始まりまし。部門は市の部と町村の部の2部門。県内の全市町村が出場し、小学生から40歳以上までの幅広い世代の選手がたすきをつなぎます。

東郷町は、第1回大会で28町村中11位と好成績を残しますが、続く第2回大会で18位になると、その後は第3回で18位、第4回で19位と、なかなか結果が出ない年が続きます。

しかし、第5回大会で20町村中7位に入賞。前年度大会からの順位の伸びが大きかったチームに贈られる「モリコロ賞」の町村の部1位を獲得しました。その後4位、5位、4位と好調な成

績を収めますが、あと一步表彰台に手が届かず、悔しい思いをしてきました。そして、迎えた第9回大会。選手たちはこの日に向け、10月の選手選考会後から週2回2時間ずつ練習を重ねてきました。大会当日は、朝から雪が舞う最悪の天候でしたが、見事、16町村中3位の栄冠に輝きました。

高校生2人が大活躍

中学生に力のある選手がそろっている東郷町ですが、「この大会では高校生2人が3位入賞の立役者」と、第7区を走った八木伸一さんは話します。

「まず、5位だった順位を3位まで上げ、町村の部で区間賞を取った加藤遥香さんの頑張りや言うまでもありません。しかし、次の笹尾俊輔くんも素晴らしかった。彼は過去3回はすべて補欠選手だったのですが、この大会で初めて走ったんです。期待以上の走りを見せてくれました」

3位で加藤さんからたすきを受け取った笹尾さんは、会心の走りを見せ、2位でアンカーにたすきをつなぎました。

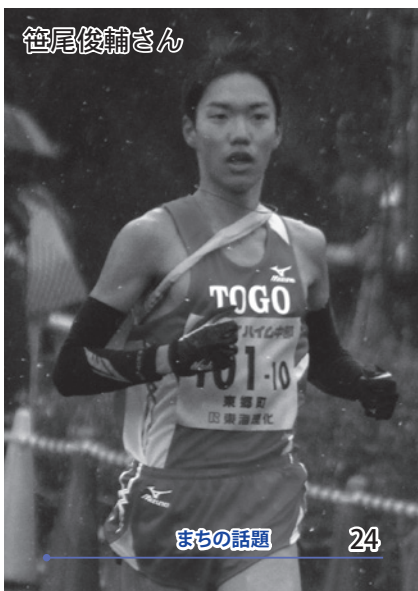
「緊張もありましたが『走れてうれい』という気持ちが大きかったです」と当日を振り返る笹尾さん。自身の走りについては「もうちょっと走れたかな、という気がします」と控えめでした。

さらに上を目指す

愛知駅伝の選手に選ばれるということは、町の代表に選ばれるということ。陸上に打ち込む小中学生の中には、駅伝出場を夢見ている子も少なくありません。第3区を走った6年生の渡辺真衣さんも「ずっと出たかったの、出られてうれしかったです。中学生になっても選手になりたいです」と話してくれました。

実力だけでなく精神的なものにも左右される駅伝。一人では諦めてしまいそうなときでも、たすきがあると「仲間のために頑張ろう」と力が出せるといいます。「他市町村からは『選手同士があまり話したことがない』という話も聞きますが、東郷町の選手は、ほとんどが同じ陸上クラブに所属していて普段から顔を合わせているので『みんなのために走ろう』という力がよりわいてくると思います」と八木さんは話します。

東郷町が第5回大会から5連覇を達成している町村の部。絶対王者の連覇を止めるのは東郷町かもしれません。一歩一歩着実に実力を伸ばす選手たちの今後の活躍に期待です。



笹尾俊輔さん